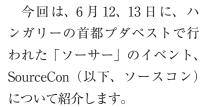
## 世界の人事はこうなっている

リクルート ワークス研究所 グローバルセンター長 村田弘美

第8回

**人材を発掘する「ソーサー」の育成** (ハンガリー)



日本では聞き慣れませんが、欧 米には、企業が採用を行う際に人 材を発掘するソーサーという専門 職があります。簡単にいうと、採 用テクノロジー、とくに情報検索 技術や最新のソーシングツールを 駆使して、インターネット上にあ る情報のなかから、企業の求める 人物像に近い、またはそれ以上の 人材を発掘する、という職種です。 たとえば、世界中からエンジニア を発掘し、リスト化してリクルー ターにつなぐというように、採用 の基幹的なプロセスを担います。

欧米も、日本と同じように高度 専門職の人材不足が顕著で、旧来 の方法――求人広告を掲載して、 応募を祈って待つ(Post&Pray) だけでは、候補者を獲得できなく なっています。そのため、人材を 積極的に探すソーサーの重要度が 高まっているのです。

ソースコンは今年で11回目。 今回、初めて欧州で開催されました。米国開催に比べると参加者数 は半分ですが、それでも欧州を中心に、34カ国から約300人のソーサーらが集結しました。主催のERE Mediaが提供するイベント用アプリWhovaを使えば、全体のスケジュールの共有だけでなく、ほかの参加者のプロフィールや名刺の取り込み、講演者とのメッセージ交換、ツイッターへの投稿、写真共有などを利用できます。また、夜には「グランドマスターチャレンジ」というソーシング力を競うコンテストもありました。

ソースコンは、ソーサーの育成 の場としても貴重な存在です。採 用テクノロジーの分野では、頻繁 に新しいツールが開発されるた め、どのような方法でソーシング するのがよいのか、最適化の方法 は常に変わっていきます。そのた め、企業はタイムリーにソーサー の教育訓練やフォローを行うこと が難しく、新しい情報や手法を把 握しておかないと、競合他社に遅 れをとるのではないかという危機 感があります。ソーサーを20人 以上配する企業もありますが、1 人から数人の企業が多く、育成ま で手がまわらないのが現状です。

今回のソースコンでは、開催国

以外にも、近隣国のドイツ、イタリア、チェコ、またオーストラリアなどの企業から、勉強のために1人で参加するソーサーも多数いました。主催者側のスタッフは、参加者を孤独にしないために、朝食や昼食時、講演の合間にも気にかけ、ネットワーキング機会も多く提供していました。

ソースコンが、実際にはどのように育成機能を果たしているかというと、ソーシングをするためのさまざまなツール、その技術と利用方法、ちょっとしたコツなど、あらゆる情報を惜しげもなく提供、共有しています。高い実績をもつトップクラスのソーサーが登壇し、ふだんどのような1日を過ごしているのか、そのスケジュールやソーシングの方法、使用しているツールまで開示していたりもします。

日本では、競合を含む他社に詳細な情報や自分で工夫して得たノウハウなど、自分の手の内を見せることはあまりしないと思うのですが、変化が激しい新しい職種で人を育てるには、そういった"常識"を超えて、ともに学ぶことが非常に重要だと感じました。